

8月23日 (日)	「神殿の建築は、石切り場でよく準備された石を用いて行われたので、建築中の神殿では…音は全く聞こえなかった」(7節)。神殿建築のために労した多くの技術者、労働者たちを想う。彼らは「主なる神を礼拝する建物のために」と一つの石を切り出すことにも祈りを込めて丁寧な仕事をした。今日、わたしに託された、神礼拝の奉仕に祈りを込めてあたりたい。
列王記 上 6章	
24日 (月)	「ヒラムは洗盤、十能、鉢を作って、ソロモン王のために主の神殿でしようとしたすべての仕事を終えた」(40節)。神殿の内壁はティルス産レバノン杉で造られ、神殿祭具はティルスの青銅職人ヒラムが製作した。異邦の国ティルスの協力なしに神殿は建たなかったのである。大井教会の礼拝堂の基礎も床板も外国労働者の尊い働きによることを感謝し覚えたい。
列王記 上 7章	
25日 (火)	「わが神、主よ、ただ僕の祈りと願いを顧みて、…夜も昼もこの神殿に、この所に御目を注いでください」(28—29節)。神殿は、イスラエルの民が敵に打ち負かされた時(33節)、罪を犯したために天が閉ざされた時(35節)、捕虜になった地で自らを省みる時(47節)、主に立ち帰って祈りをささげる場所。私たちも、どんな時にでも神殿に帰って来ることができる。
列王記 上 8章	
26日 (水)	「わたしはあなたの建てたこの神殿を聖別し、そこにわたしの名をとこしえに置く。わたしは絶えずこれに目を向け、心を寄せる」(3節)。神殿が完成したとき、主は再びソロモンに現れて祝福してくださった。主が「目を向け、心を寄せる！」と約束されたことが、どれだけ多くの人々の心の支えとなったことか。神殿はすべての人の祈りの家として建てられている。
列王記 上 9章	

27日 (木) 列王記 上 10章	「シェバの女王は、ソロモンの知恵と彼の建てた宮殿を目の当たりにし…息も止まるような思いであった」(4－5節)。ソロモンに贈り物を携えてきた世界中の王たちは、宮殿の建物や神殿の献げ物の素晴らしさに目を奪われるばかりで、そこで礼拝されている神に目を注いだ者はいなかった。富と力が賛美された宮殿と神殿はやがて跡形もなく滅ぶことになるのに。
28日 (金) 列王記 上 11章	「ソロモン王は…多くの外国の女を愛した。…ソロモン王は彼女たちを愛してそのとりことなった」(1－2節)。ソロモンを取り囲んだ富は彼の心を主なる神から引き離し、彼の素晴らしい知恵は富の力に歪められていった。富と知恵は第一に求めるべき「宝」ではない。この世界で最も小さくなられた主イエスを通していただく信仰こそ、求めるべき第一の「宝」である。
29日 (土) 列王記 上 12章	「彼(ヤロブアム)は…金の子牛を二体造り、人々に言った。『見よ、これがあなたをエジプトから導き上ったあなたの神である』」(28節)。ソロモンの死後すぐに王国は分裂し、北王国のヤロブアム王は「エジプトから導き上った金の子牛」の神話をでっちあげて人々を掌握した。フェイクニュースで人々の心を誘導するのは、古代から権力者の常套手段なのである。
30日 (日) 列王記 上 13章	「あの人が、主の言葉に従って…呼びかけた言葉は、必ず成就するからだ」(32節)。ソロモンの死後、南北に分裂したイスラエルに遣わされる「神の人」たちの間には、ときに奇妙な言動や不可解な死が起こる。あまりにも大きく重い神の言葉を託されて受け切れない「普通の神の人」たちの姿かもしれない。それでも、彼らが伝えた神の言葉は空しくされない。